



鳥小糸の巻

巻

2839
13



2839



七 不

△山津

滑替なげか鄙談ひたん息子こゝろ氣質かぢ序しり

乾くわんりり乙女おんなのの距きり子こああれれババ押おしりり玉たま拍ひ子こは

縁ゆかり踏ふあありり。ろろぬぬここああままははああゆゆここせせじじま

活か業ぎやう乃のははくく。柳やなぎハハここららりり花はなををたたれ

なな井いのの色いろああまま首くび尾びねねぬぬ息いき子こ氣き質しつ

田のり舎や志しここるる滑なげ替かもも年ねん一いち歳さい一いち年ねん

ははここせせここをを南みなみ田た川がわりり。流なが流ながああ。ああり

たなく見たり。依ほ雁の志。あひくらすね。
まは揚たまため。ひと一ひと不若しんがら和め。のよの煙うそはじめ
よりし。萬の言は紫とぞなれり。
はる波の。尚ま筒つづみ様やうの此山このやま舟ふね竟つひ
下したり。宜よろこ乃なり信しん来きぬ。新あたら平へい家けの
慶よろこ州しゅうも。生なまま若わか者もの。必かな滅めつの理こと今いま若わかく
離わか乃なり吾われ程ほど。吾われ体てい。お笈くさひ。州しゅう。みも。花はな
名無しの山

あまこしと。流ながく。佳よしれ。佳よしれ。佳よしれ。佳よしれ。佳よしれ。佳よしれ。佳よしれ。
降ふり赤あかも。は。佳よしれ。佳よしれ。佳よしれ。佳よしれ。佳よしれ。佳よしれ。佳よしれ。佳よしれ。
那な。一ひと。乃なり。吾われ。程ほど。吾われ。体てい。お。笈くさ。ひ。州しゅう。みも。花はな

振鷺亭主人の



辻君也
 玉之川
 穴方
 赤月社
 心色
 多奴
 信商人
 八橋舎
 調



倉廩實而知
 禮節衣食足
 知榮辱

換烟袋用真幕

琴樹園二喜

尖彦松多んう法手極子のう法ぬとん
まきでかさ移るまの伴き乃教

琴春亭根松

辻君もまきと実をうう屋あり

ぬまにけた子乃狐きんうも

琴通舎

君たち此のまきと

豆狐はも

酒の巻うう

あそふ客人

浮世風俗

息子氣

質全

勝手次第

翻刻不構



雷中此

若草葉

よもぎ

あまの首と

あまの

いづれ

あまの葉も

あまの葉も

川村

息子氣質初編全

炭をさそみあそきたきお音の夜の燈を寒者
めが居所の古人の附合妙あるのふ世不劫當の
子と思ふ親の知かくまそと知ぬぬその子も
りし不親とあるてふふと思ひて孝ありあ
たきあそそりし。さいふものたれとそり不孝

をよりと思ふべきる孝とあきとあつさる
へきさへあつるつもまきといひる慈の山路や
流の川を多りて二返上りえんゆきうてそそ
たりえん。鳴呼神儒佛の御厄今今に
そそめぬとあつる。古し昔物落とまそ新の
新板そのまへ取もゆめさるる。解の住持
憂あそとあつるものなめあそせん。孫の

親類よりあづけられるのやうく者福を
 とひし島子株も今八畑の甚せ者成ぬまに
 身のねらうより野合の志おとさすか
 穢の身も思ひ中りとするその中ふ
 おとみ子あんとあふ福吉をさるすよ
 いら男だやうそのいびきで子この村も
 わんぬ男ぢりやあきき年の風を狂言此附
 太モノ
 百狂を伴

小者のきんやと役割附をうごのぐ石橋のう角
 獅子とををさるけせうも湯さぬと早替り
 時あうえんとやうあうあやくとやうてめそ
 どんがり眼うおかふとんたやうあ玉の後
 こはらああめしたふよく飲やとアるよ
 三平 アニアううがお容のふ福吉さぬわきめ八月
 うんうとむげうらねへつよ鎌倉の子さぬの大をん

人殺

くらぐま

三

舞臺

あんどくあのみ神はものよまなへん

は志まかせに口もやうしやうしんがすいも

うらぐ役割のいあどびおえいあわいあ

あひるまうアアアアアアアアア

あうまといふはひんあああああああ

あたらしんあああああああああああ

あうまといふはひんあああああああ

あうまといふはひんあああああああ

あうまといふはひんあああああああ

あうまといふはひんあああああああ

あうまといふはひんあああああああ

あうまといふはひんあああああああ

あうまといふはひんあああああああ

あうまといふはひんあああああああ

あうまといふはひんあああああああ

あうまといふはひんあああああああ

ぬらぬ人のまをの結くひのうら^{おろ}壓はむくりの對面^{たいめん}

のやまのうさぎに^{うさぎ}と^とく^くは^はら^らの^のあ^あさ^さの^のあ^あさ^さの^のあ^あ

十郎^{じゅうらう}の^のあ^あさ^さの^のあ^あさ^さの^のあ^あさ^さの^のあ^あさ^さの^のあ^あ

あ^あさ^さの^のあ^あさ^さの^のあ^あさ^さの^のあ^あさ^さの^のあ^あさ^さの^のあ^あ

あ^あさ^さの^のあ^あさ^さの^のあ^あさ^さの^のあ^あさ^さの^のあ^あさ^さの^のあ^あ

あ^あさ^さの^のあ^あさ^さの^のあ^あさ^さの^のあ^あさ^さの^のあ^あさ^さの^のあ^あ

あ^あさ^さの^のあ^あさ^さの^のあ^あさ^さの^のあ^あさ^さの^のあ^あさ^さの^のあ^あ

これ^{これ}の^のあ^あさ^さの^のあ^あさ^さの^のあ^あさ^さの^のあ^あさ^さの^のあ^あさ^さの^のあ^あ

今^{いま}の^のあ^あさ^さの^のあ^あさ^さの^のあ^あさ^さの^のあ^あさ^さの^のあ^あさ^さの^のあ^あ

て^ての^のあ^あさ^さの^のあ^あさ^さの^のあ^あさ^さの^のあ^あさ^さの^のあ^あさ^さの^のあ^あ

猪^{いの}狩^のの^のあ^あさ^さの^のあ^あさ^さの^のあ^あさ^さの^のあ^あさ^さの^のあ^あさ^さの^のあ^あ

の^のあ^あさ^さの^のあ^あさ^さの^のあ^あさ^さの^のあ^あさ^さの^のあ^あさ^さの^のあ^あさ^さの^のあ^あ

の^のあ^あさ^さの^のあ^あさ^さの^のあ^あさ^さの^のあ^あさ^さの^のあ^あさ^さの^のあ^あさ^さの^のあ^あ

の^のあ^あさ^さの^のあ^あさ^さの^のあ^あさ^さの^のあ^あさ^さの^のあ^あさ^さの^のあ^あさ^さの^のあ^あ

射^いち^ちの^のあ^あさ^さの^のあ^あさ^さの^のあ^あさ^さの^のあ^あさ^さの^のあ^あさ^さの^のあ^あ

とやぶ。田づういゆふらよのさぶら。田井佐とまで
田てあむしあまるとい。國あひびげまのせむぎで田河津
どんのへあまぬやうい。國車前草どんのあんといふ
とどぞう
土牛房をとらさうる。完あまあつとざうえんざ田まら
ぞくとうらさうらどえな。うらも。いふさうらト。す
代て取附の持除且那の頼朝を國今に持除も祐つ
ぶあ
及くあ大根もらまくと人のぶさまひいさど茄子
び債と知るは。聖のあなは石ととらとてい。あはあ。
ぶけまてあま
さう
いげん
あ
あ
あ

あつちあふと其較の河津守佐美小久津美の庄合と
一の中や
三の庄屋どのあつちの形の口並のりうめりてはく
あまをいふにこむぶ。寶のあ田たうの山あいり
あまのいさあまらうらぬい里芋親の歌とらう鋤鉄てん
あつちあまのいさあまてんてんいさあまあいさ
んーのらうらぬあ身あのわるああらぬ油揚氣國
あつちあまらうらうら請合ああ身あが心根ああらうらあ
あ

ちりあり

祐成^{ちりあり}ヒーのうら^{あき}ら^い田^あを^いす^い Uraura no Ina o susui

あき

イ^い田^あ時^あ宗^あ国^ああ^いヒ^い田^あは^いの^い Ita no Munakuni no Ina wa

ア^いウ^いの^い U no U no

イ^いノ^い Ino no

イ^いノ^い Ino no

イ^いノ^い Ino no

イ^いノ^い Ino no

イ^いノ^い Ino no

十一

イ^いノ^い Ino no

イ^いノ^い Ino no

イ^いノ^い Ino no

イ^いノ^い Ino no

イ^いノ^い Ino no

イ^いノ^い Ino no

イ^いノ^い Ino no

イ^いノ^い Ino no

イ^いノ^い Ino no

1000 1000 1000 1000

1000 1000 1000 1000 1000 1000

1000 1000 1000 1000 1000 1000

1000 1000 1000 1000 1000 1000

1000 1000 1000 1000 1000 1000

1000 1000 1000 1000 1000 1000

1000 1000 1000 1000 1000 1000

1000 1000 1000 1000 1000 1000

1000 1000

1000 1000 1000 1000 1000 1000

1000 1000 1000 1000 1000 1000

1000 1000 1000 1000 1000 1000

1000 1000 1000 1000 1000 1000

1000 1000 1000 1000 1000 1000

1000 1000 1000 1000 1000 1000

1000 1000

高尾 高尾の山にありては、昔も今も、
花の香りにあふれ、心も静かに
たのむ。高尾の山にありては、
花の香りにあふれ、心も静かに
たのむ。

高尾の山にありては、昔も今も、
花の香りにあふれ、心も静かに
たのむ。高尾の山にありては、
花の香りにあふれ、心も静かに
たのむ。

高尾の山にありては、昔も今も、
花の香りにあふれ、心も静かに
たのむ。高尾の山にありては、
花の香りにあふれ、心も静かに
たのむ。

Handwritten text in a cursive script, likely a medieval manuscript. The text is arranged in several lines, with some words enclosed in rectangular boxes. The script is dense and characteristic of the late Middle Ages. There are several instances of boxed words, possibly indicating specific terms or names. The text appears to be a form of Latin or a related language, given the structure and the use of boxes for emphasis or organization.

Handwritten text in a cursive script, similar to the left page. The text is arranged in several lines, with some words enclosed in rectangular boxes. The script is dense and characteristic of the late Middle Ages. There are several instances of boxed words, possibly indicating specific terms or names. The text appears to be a form of Latin or a related language, given the structure and the use of boxes for emphasis or organization.

25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100.

25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100.

可^い編^い者^いが^い腹^いの^い神^い史^いの^い花^いも^いう^いき^いて^いま^いの^い喜^いの^い賜^い
と^いる^いの^いを^いた

